



Sustainability Report 2024

— 2023年度取り組み報告書 —

とやま生協「富山県 SDGs 宣言、2030 環境・サステナビリティ政策」行動指針

とやま生協は、「環境保護」「社会的包摶」「経済成長」の3つの主要要素の調和を大切にして、持続可能な社会をめざし、事業・活動を通して組合員とともにSDGs17の目標達成に貢献していきます。

I. エシカル消費

- エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。

II. 気候変動対策

- 生協事業のサプライチェーン全体と組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。
- 再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。

III. 省資源・資源循環

- 生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また持続可能な原材料への切替を進めます。
- 生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します。
- 生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。

IV. 生物多様性保全と人権尊重

- サプライチェーンを通して、人権を尊重し環境に配慮した「責任ある調達」を進めます。
- 組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します。

V. 行政や地域・他団体との連携と情報公開

- 環境・サステナビリティに関わる諸課題を解決するために、新たな協働の取り組みにチャレンジします。
- 生協の環境・サステナビリティに関わる取り組み状況を積極的に公開し、社会との対話を進めます。

VI. 平和で公正な社会づくり

- 平和で公正な社会づくりを進めます。



とやま生活協同組合

〒930-0873 富山市金屋555 TEL(076)443-8800(代) FAX(076)443-8810



エシカル消費



未来へ続く世界の実現のために、私たち生協はエシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、積極的に取り組んでいます。エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。

生協では地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを「エシカルなお買い物」と表現し、積極的に応援しています。

(1) エシカル消費対象商品の普及促進

とやま生協は「エシカル消費」を

- ① 環境への配慮～地球環境を守る～
- ② 社会への配慮～公正な社会の仕組みづくり～
- ③ 人々への配慮～人々の「生きる」を支える～
- ④ 地域への配慮～豊かな地域を作り出す～

の4つの視点で進めています。

宅配事業では、年間を通してエシカル消費対象商品の普及に取り組み、2023年度のエシカル消費対象商品供給高は17億600万円(計画比107%、前年比108%)となりました。

エシカル消費対象商品は、「コープファミリー」や「くらしのパートナー」などの商品カタログで共通のエシカルマークとして案内し、見つけやすくしています。



▲「コープファミリー」など主に食品に掲載しているエシカルマーク



▲「くらしのパートナー」など主に日用品に掲載しているエシカルマーク

みなみ店では、2月に実施した「SDGsアンケート」期間に「エシカル消費コーナー」を設けて、来店者へのエシカル消費対象商品の普及に取り組みました。



▲みなみ店でのエシカル消費コーナー

(2) 組合員や地域の方への啓発活動

「アースデイとやま」、「とやま環境フェア」、「富山県消費者大会」、「みんなの消費生活展」などのイベントでエシカル消費を主テーマにしたブース出展を行い、エシカル消費の取り組みについて来場者への普及・啓発活動を行いました。



▲とやま環境フェアにブース出展

2月には、サステナブルな消費行動をお知らせする中で、組合員の環境問題やリサイクル、エシカル消費、食品ロス削減など、SDGsに対する意識を調査し、さらに多くの皆さんに知っていただくことを目的に「SDGsアンケート」を実施し、2,186人から回答をいただきました。

機関誌「リアン」や行政等のイベントで広報したこと也有って、「エシカル消費」の認知度が40%(前年12%)、「SDGs」の認知度が85%(前年68%)と、前年より大きく伸びました。



▲SDGsアンケートの案内チラシ



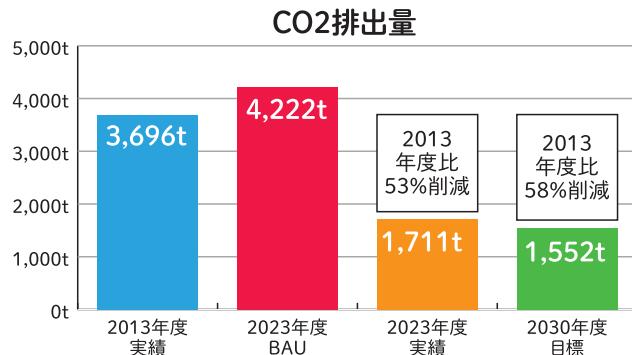
とやま生協では、2030ビジョンで「地球温暖化対策を進め、再生可能エネルギーの利用・普及・開発をすすめます」としており、環境への取り組みを重要な社会的責任の一つとして位置づけ、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

(1) 温室効果ガス削減

とやま生協では「2050年カーボンニュートラル」達成に向けて「2030温室効果ガス削減計画」を策定し、「2030年にCO₂排出量を2013年度比で40%削減」することを目標に取り組んできました。

2023年度のCO₂排出量は1,711tで、これは「2013年度比で53%削減」に相当します。

とやま生協では、地球温暖化防止対策を巡る社会情勢が刻々と変化していることを踏まえ、更なる高みをめざして、2024年度からは「2030年にCO₂排出量を2013年度比で58%削減」を目指に取り組みます。



* 2013年度の数値は、旧富山県生協と旧CO₂・OPとやまの合算値です。
* 2023年度のBAUとは、段階削減の対策を採らなかった場合の排出量(推定値)です。

また、組合員に呼び掛けて、暮らしの中での温室効果ガス削減について考える一つの機会として、無理のない範囲で、ご家庭の1ヵ月間の電気使用量を削減する「みんなで節電アクション」に取り組みました。

60世帯540人が参加し、参加者全員で削減できた電気使用量は、12世帯分の1ヵ月の電気使用量にあたる6,234kWhとなり、杉の木が1年間に吸収できるCO₂量に相当する3,110kgのCO₂が削減できました。



▲「みんなで節電アクション」募集チラシ

(2) 再生可能エネルギーの開発と導入量増加

東部センター、要冷物流センター、農産物流センターに加えて、2023年4月に西部センターにも太陽光発電設備を設置し、発電した電力を自家消費しています。

また、2023年10月から調達している高圧電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替えたことにより、とやま生協の電力使用量の88%が再生可能エネルギー由来となりました。

西部センターでは、2023年4月より北陸電力オンサイトPPAの仕組みを導入して太陽光発電を開始し、発電した電力は自家消費しています。自家消費してもなお余剰となる電力は北陸電力に売電しています。



西部センター太陽光発電設備▲

CO₂フリー電力

購入契約証明書



また、2023年10月に各事業所・施設で調達している高圧電力を、再生可能エネルギー100%で作られた電力に切り替えたことにより、とやま生協の電力使用量の約88%が再生可能エネルギー100%由来となりました。

◀CO₂フリー電力購入契約証明書



とやま生協では持続可能な循環型社会の実現をめざし、プラスチック製容器包材の削減や生協の事業から排出される容器包装等のリサイクルに取り組んでいます。

また、ご家庭からの食品ロスを削減し、かつ、必要とされている方々にお届けして地域社会に貢献するために、フードドライブにも取り組んでいます。

(1) プラスチック製容器包装の削減

環境や社会に配慮した取り組みは、プラスチック問題への対応として、ボトルの改良やラベルの縮小またはラベルを廃止するなどの改善をすることで、容器のプラスチック使用量を削減した商品の取り扱いを進めてきました。

2023年度のコープ商品によって削減されたプラスチックは、640,428点のご利用で13.5t(前年比162%)となりました。



宅配事業では、とやま生協オリジナルカタログ「スマイルコープ」で取り扱っている、3つの水産加工品のプラスチックトレイを2月から廃止しました。

【プラスチックトレイを廃止した商品】

- ① 甘口銀鮭切身 3切 (150 g)
- ② 甘口紅鮭切身 3切 (150 g)
- ③ こまい丸干し (95g)

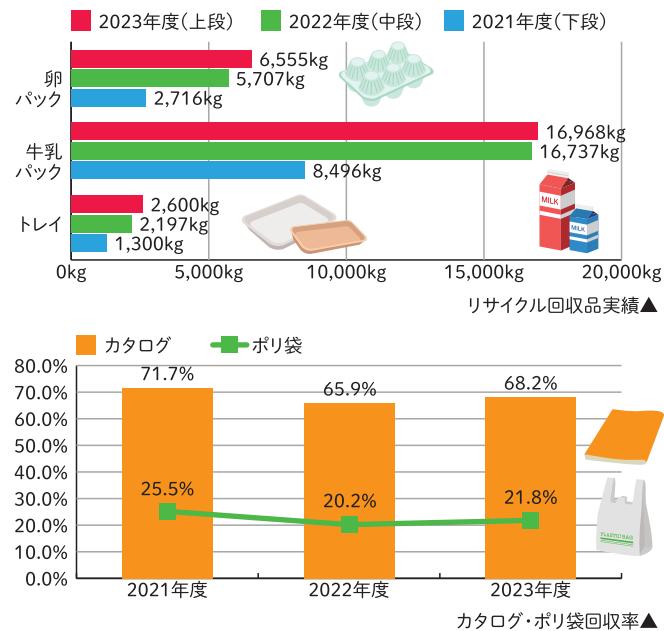


店舗事業では、富山県環境政策課と連携して、バイオマスを使用した袋での揚物の販売実験、野菜(根菜類)・果物のバラ売り、惣菜の紙袋容器での販売などを進めました。

(2) 生協事業で排出される容器包装等の回収・リサイクル

持続可能な社会づくりをめざし、資源の有効活用のため、生協の事業から排出される容器包装等のリサイクル活動に取り組んでいます。

宅配の配達時に回収しているのは、「生協のカタログ」・「卵パック」・「牛乳パック」・「食品トレイ」・「通い箱の内袋」・「注文書が入った袋」です。



(3) フードドライブ

東部センターでは5月から、みなみ店では8月からフードドライブ回収BOXを常設化し、北部センターに併設しているサロンピピでは6月、12月、3月のイベント開催時にフードドライブを実施しました。また、10月をフードドライブ月間と位置づけて、各プロックの「せいきょうようまつりinとやま」や全事業所でフードドライブに取り組みました。



▲子ども食堂に寄贈

2023年度は年間で3,823点・667.9kgの食品と232点・106.3kgの日用品が集まり、その全てを必要とされている社会福祉団体や子ども食堂、福祉施設などに寄贈しました。

1月に発生した大雪災害では、組合員にお届けできなかった日用品や常温品(ドライ品)を、フードバンクとやま様の協力も得て、必要とされる団体等に譲渡することで、食品ロスの発生を防止しました。

生物多様性保全と人権尊重



とやま生協では、生産者の顔が見える産直商品や地産地消商品、適正な価格で取引された商品など、地域や社会、環境や人々に配慮した商品を提供することで、「責任ある調達」を進めています。

また、自治体や地域の団体等と連携し、環境や生物多様性保全に向けた活動を行っています。

(1)人権を尊重し環境に配慮した 「責任ある調達」に向けた取り組み

とやま生協では、<5つの産直基準>の中に「持続可能な生産と、環境に配慮した事業の推進」を位置づけ、また、<商品政策>に沿って「人権尊重に配慮して生産された農林水産物や社会的に認知された外部基準(フェアトレード)を満たした商品の導入」を進めています。

2023年度は、2つの産地(とやまレインボーファーム、E&Tファーム)を審査の上、新たな産直産地として認定しました。

8月、10月、11月には「産直交流会」、3月には、生産者とその産地の商品を使って一緒に料理をする活動として「産直キッチン」を開催し、生産者との交流を深めました。

産直交流会▶



▲産直キッチン



▲海岸クリーン作戦



海の
豊かさを
守ろう



◀マイクロプラスチック調査

9月には、「生物多様性ってな～に?×富山の里山 生きもののつながり」と題して、親子で生物多様性を学ぶ環境学習会を開催し、現地ナチュラリストのお話を聞きながら、植物や生き物の観察や池のほとりで昆虫や水生生物を観察するなど、豊かな生態系を育む大切さを親子で学びました。

生物多様性を学ぶ
親子環境学習会▼



(2)環境保全活動の推進と 自然共生社会の実現に向けた取り組み

県内の生協や他の協同組合、地域の方たちと協力して、毎年6月に県内2会場で「海岸クリーン作戦」に取り組んでいます。

2023年度は、富山市の八重津浜と射水市の六渡寺海岸で開催し、海岸清掃とマイクロプラスチック調査を行いました。

自治体をはじめ、企業や地域の団体と協力し、課題解決のための取り組みを進めています。



(1) 包括連携協定と地域見守りの取り組み

魚津市と富山市に加えて、2023年5月に高岡市と、2024年3月に立山町と包括連携協定を締結しました。

また、富山県内全域をくまなく周る宅配事業や配食事業を行っている強みを活かして、県内全15市町村と「見守り協定」を結び、地域の見守り活動に取り組んでいます。



▲高岡市と包括連携協定を締結

魚津市と連携した子育て支援の一環として、5月より新生児のいるご家庭への「オムツ宅配便」を開始しました。

「オムツ宅配便」▶
でのお届け



小規模多機能型居宅介護施設「輝 城東」では、高岡市との連携事業「認知症カフェ」を7月から定期的に開催しました。

◀認知症カフェ



立山町では、地元の移動販売事業者の撤退と町からの要望もあって、とやま生協が移動店舗2号車を増車し、2023年4月から立山町域で移動販売を行っています。



◀移動店舗
「クルくる」

また、2023年9月に三井住友海上火災株と「SDGs推進に関する包括連携協定」を締結しました。3月には両者が連携して「企業がSDGsに取り組む意義」・「私たち生協とSDGsとの関わり」について、とやま生協の管理職を対象にした学習会を行いました。



▲管理職対象SDGs学習会

(2) とやま生協のSDGs取り組み状況の公開

組合員がSDGsへの認知度・理解度を深め、身近なものとして捉えていただくことを目的に、機関誌「リアン」にSDGs17のゴール(目標)についての記事を連載しました。



機関誌「リアン」▶
2024年3月号 <SDGs Journey>

平和で公正な社会づくり



平和で心豊かな地域社会を創るために、「ピースアクション」への参加や学習会、署名活動などを行いました。

また、助け合いの組織として、国際支援活動をはじめ、自然災害で困難な状況にある方々や地域への支援活動にも取り組みました。



(1) 平和活動や国際支援活動

平和活動では、8月に日本生協連と広島県生協連が主催する「ピースアクションinヒロシマ」に組合員親子2組4名を代表派遣しました。



「原爆の子の像」に、組合員から寄せられた▲
「平和の折り鶴」を奉納

また、9月には県内の他生協とともに、子や孫たちに平和な世界を残し平和の大切さを伝え考えていく機会として「平和のつどい」を開催しました。

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」にも取り組み、3,011筆の署名が集まりました。



▲日本ユニセフ協会からの感謝状

国際支援活動では、ガザ緊急支援募金を含むユニセフ募金(6,010人、567万円)や、ご家庭に眠っている書損じ・未使用のハガキや切手、商品券などを集めて国際支援をする「書損じハガキetc.回収キャンペーン」(認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールド主催、1,601件・338万円相当の協力)などに取り組みました。



(2) 能登半島地震をはじめとする災害支援活動

災害支援募金として、「令和5年7月大雨災害」に対する災害緊急募金(2,507人、325万円)と、令和6年元日に発生した「能登半島地震」に対する災害緊急募金(12,452人、2,198万円)に取り組みました。



地震の被害が大きかった富山県氷見市での▲
救援物資お届け支援

また、とやま生協では能登半島地震の発災直後から、被災地への救援物資のお届けやボランティア派遣、炊き出し支援をはじめ、被災されたCO・OP共済加入組合員へのお見舞い活動、石川県の生協「コープいしかわ」への業務支援などを行ってきました。



◀ 石川県能登町での
炊き出し支援



▲富山県に能登半島地震義援金を贈呈

とやま生活協同組合の紹介

配送センター

- ① 北部センター ② 富山センター
- ③ 西部センター ④ 砺波センター
- ⑤ 東部センター

事務所

- ⑥ 本部 ⑦ 堀川事務所

店舗

- ⑧ みなみ店

物流センター

- ⑨ 農産物流センター
- ⑩ 要冷物流センター

福祉事業所

- ⑪ デイサービスセンターまる～な
- ⑫ ヘルパーステーションまる～な
- ⑬ ゆとり～な ⑭ 輝ゆとり～な
- ⑮ 輝くろべ ⑯ 輝城東
- ⑰ 輝かみいいの

私たちちは力を合わせ、誰も取り残さない、平和で心豊かな地域社会を創ります。

とやま生協は、「私たちちは力を合わせ、誰も取り残さない、平和で心豊かな地域社会を創ります」という理念のもと、事業規模の拡大と事業経営の効率化により、食の安全とくらしの安心をさらに前進させ、住み慣れた地域で安心してくらし続けられる地域社会づくりへの貢献をめざしています。



SDGs とは？

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月の国連サミットで採択された「17のゴールと169のターゲット」からなる「持続可能な開発目標」です。

貧困や飢餓、暴力を撲滅し、地球環境を壊さずに経済を持続可能な形で発展させ、人権が守られている世界を実現することを目指しています。

「誰一人取り残さない」というSDGsが目指す姿は生協の理念と重なり、また協同組合(生協)はSDGsを実現するための重要なパートナーとして位置づけられています。

キーワードは「誰一人取り残さない」。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

